

『学研高山地区第2工区マスタープラン』を策定！

学研高山地区第2工区の全体土地利用計画等（マスタープラン）を策定していくため、令和元年10月に地権者や地元自治会、有識者、関係機関の参加による「学研高山地区第2工区まちづくり検討会」を設置し、平成29年9月に作成した「学研高山地区第2工区有識者懇談会とりまとめ」を踏まえ、地権者の会との連携、情報共有を図りながら、実現可能なまちづくりについて検討を進めてまいりました。

マスタープランは、学研高山地区第2工区におけるまちづくりの実現に向け、本市が目指すまちづくりの方針などを取りまとめたものであり、今後、国、奈良県ほか関係機関との協議を経て、地権者や民間事業者、関係機関との公民連携により、まちづくりに向けた取り組みを進めてまいります。



座長挨拶

立命館大学 総合科学技術研究機構上席研究員 村橋正武



約2年半計10回の検討会を開催し、色々な立場の方からご意見をいただきました。約1000名の地権者、約288haにおよぶ開発は、今後二度と起こらないだろうという規模と複雑さをもっています。学研高山地区が新しいまちづくりの姿かたちを見せることによって、生駒、関西学研都市、近畿の大きなまちづくりの一つのモデルになるだろうと考えています。ここで出した知恵と努力の成果は他のところにも大きく波及するのではないかと心から期待しています。事業化に向けての取り組みは一層の困難もあると思いますが、具体的なまちの姿を関西学研都市の一つのクラスターとして示していただきたいと思っています。

市長挨拶

生駒市長 小紫雅史

本日検討会是一个の節目を迎えますが、検討会と並行して地権者の皆様方の検討、関係者との意見交換といった試みがあり、具体的な形にしていく段階に入っています。マスタープランでは、まちづくりのテーマの中に、オープンイノベーションという言葉が入っています。昨年度、生駒市制50周年、奈良先端大創立30周年という節目となるタイミングで、両者の包括協定を結ばせていただきました。先進的な技術を持つ奈良先端大が、本市にあることの価値を改めて認識すると同時に、両者の連携をいかにまちづくりに活かしていくかということを中心に据えたいと思っております。

生駒市には長きにわたる歴史、伝統、そして自然があります。また周囲には工業地域があり、本市の周囲には素晴らしい人材が集っています。生駒の地だからできる開発をしていきたいと考えております。



■学研高山地区第2工区まちづくり検討会の検討経緯



	会議	検討内容
令和元年10月	第1回	・学研高山地区第2工区の位置づけについて ・現況とまちづくりの実現に向けた課題について
令和元年12月	第2回	・第1回学研高山地区第2工区まちづくり意向調査集計について ・学研高山第2工区の骨格道路について ・造成の考え方等について
令和2年2月	第3回	・第1回学研高山地区第2工区まちづくり意向調査の結果について ・学研高山地区第2工区の骨格道路について ・造成イメージについて
令和2年7月	第4回	・これまでの検討と今後について ・事業化推進における基本的な方針について
令和2年10月	第5回	・第12回地権者の会役員会の報告について ・民間事業者ヒアリングの結果について ・民間事業者ヒアリング等を踏まえた事業規模などについて
令和2年12月	第6回	・土地利用方針等について ・マスタープランの骨子案について
令和3年3月	第7回	・まちづくりの方針について ・実現化に向けた基本的な考え方について ・マスタープラン素案（たたき台）について
令和3年6月	第8回	・計画人口と機能別土地利用面積について ・骨格道路の考え方について ・今後の取組みについて
令和3年8月	第9回	・マスタープラン素案（案）について
令和4年5月	第10回	・マスタープラン（案）について ・マスタープラン素案とりまとめ以降の取組みについて

#学研推進室からのお知らせ

「学研高山地区第2工区マスタープラン」の本編はこちらをご覧ください。
<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000027324.html>



～お問い合わせ先～

生駒市 都市整備部 拠点形成課 学研推進室

電話：0743-74-1111（内線 3851、3860） FAX：0743-74-9100

e-mail: gakken@city.ikoma.lg.jp